



活動の目的

- 1 成松の地域行事である「愛宕祭」と「造り物」製作に学生が参加し、それらの可能性・魅力を発見すること
- 2 伝統行事への参加を通じた地域環境のデザイン

連携にいたる経緯

1990年代から、人口減少や商店街の衰退、それに伴う合併などで揺れ動く中、愛宕祭や造り物の伝統を基に地域を盛り上げようと、丹波市と地域が連携しながら地域づくりに取り組んでいた。そんな中2007年に青垣町佐治に関西大学佐治スタジオが開設され、丹波でのプロジェクトが始まった。2009年に氷上町成松で行った空き家活用について考える事業で、地元住民と丹波プロジェクトのメンバーで成松でのまちづくりについて話し合う機会があり、関大生の愛宕祭への参加が決定。関西大学と佐治での活動と共に丹波市との共同事業として実現した。

活動内容

兵庫県丹波市氷上町成松で毎年8月に開催される「愛宕祭」に学生が参加し、約300年の歴史を持つ神様への奉納物「造り物」を学生の視点で捉え、コンペ形式で提案し最優秀作品を実際に祭りできつくり、まちに新しい風や元気を送りこもうというプロジェクトである。2010年以降毎年継続的に愛宕祭に参加する中で、地域にATACOMの活動が受け入れられてきている。

現在では「造り物」に参加する以外にも祭りのサイン計画やワークショップ、ウォークラリーの提案・企画を任されるようになっていく。祭りに訪れた人達に成松の良い所を再認識してもらえるよう取り組んでいる。また、愛宕祭での活動を通して地元住民と協働し、祭り以外の機会でも関わりが増し、成松の町全体の環境について学生が地元住民と一緒に提案できる関係になりつつある。(阪井勇樹／関西大学大学院)

活動の成果

- 1 学生が地域行事の愛宕祭に住民と同じ立ち位置で参加できていること
- 2 学生が地域に入り込むことによる賑わいの創出と地域の魅力の再発見
- 3 継続的に地域と関わりを持つことで、学生の第二の故郷となっていること

● 教員紹介



環境都市工学部 教授 江川 直樹(えがわ なおき)

1951年三重県生まれ。74年早稲田大学理工学部建築学科卒、76年同大学大学院修士課程修了。77年(株)現代計画研究所入社、82年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とするデザインに取り組む。2004年に関西大学に教授として着任。多くの受賞歴がある中、2018年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。

DATA

● 主な連携先・メンバー

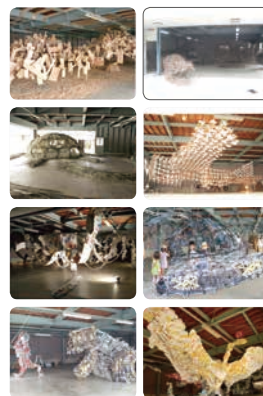
関西大学建築環境デザイン研究室／丹波市／関西大学佐治スタジオ／成松造り物保存会／愛宕祭実行委員会／中央地区自治振興会／成松ロイヤルクラブ

● 活動地域

丹波市氷上町成松

● 活動資金

関西大学／関西大学・丹波市連携事業推進協議会／成松造り物保存会



これまでの学生の造り物



祭りの様子



モノづくりの楽しさを伝えるワークショップの様子

今後の課題・目標

- 1 ATACOMの活動に対する地元住民の理解度を深める
- 2 現在の活動を継続していくための仕組みづくり